地方小出版 情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

「シルクカントリー群馬」をテーマにしたキャンペーンと出版活動

文・上毛新聞社事業局出版部管理監　富澤隆夫

上毛新聞社は、群馬県で30万余部の日刊紙を発行する地方紙である。今回、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録が決定したことで、当社が取り組んできたキャンペーンと連動した出版活動について報告させていただく。

上毛新聞／2014年10月7日付全頁広告

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」とは

富岡製糸場（富岡市）はご存じの通り、明治政府が殖産興業の目玉として建設した当時としては異例なほどの大規模な工場。生産された高品質生糸は主要な輸出品となり外貨獲得に大いに貢献、日本は世界一の生糸輸出国となった。約140年前の建造当時とほぼ変わらない広大な煉瓦造のたたずまいには、先進国に懸命に追いつこうとした時代の雰囲気が感じられる。

その他、近代養蚕農家の原型をとどめる田島弥平旧宅（伊勢崎市）、日本の標準養蚕法の確立と普及拠点となった高山社跡（藤岡市）、自然を生かした蚕種の貯蔵施設である荒船風穴（下仁田町）の4資産で構成されている。

絹産業のトータルなシステムを示した日本で初の産業遺産指定である。

世界遺産登録決定直後の状況

2014年6月21日、中東のカタール国の首都ドーハで開かれた第38回ユネスコ世界遺産委員会の議場で、「Congratulations Japan！」と議長が発言、木づちをたたく音が響いた。「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録が決まった瞬間である。

上毛新聞はこの日夕、号外を10万部発行した。翌日には富岡製糸場の写真を全面に使った紙面で新聞を包む「ラッピング」により、この朗報を伝えた。地元の新聞社だから、地元の出来事を伝えるのは当然、しかも、全国いや全世界が注目する出来事である、取り上げない方がおかしい。県民読者はじめ、皆さんはそう思われるに違いない。

しかし、上毛新聞社は新聞報道だけでなく、関連書籍も数多く出版した。このことを特筆すべきこととして、ここに紹介させていただく。おかげさまで、20冊余の書籍を出すことができ、

5月のイコモスによる登録勧告後、富岡製糸場への入場者数がうなぎ上りになるにつれ、3冊が増刷になった。

世界遺産登録への狼煙

そもそも、「富岡製糸場を世界遺産登録へ」と狼煙（のろし）が上がったのは、今から11年前の2003（平成15）年、小寺弘之群馬県知事による定例記者会見の席でのことであった。ここで研究プロジェクトの発足が発表になった。正直なところ、県民をはじめ社内でも世界遺産登録が実現するとは思ってもみなかったし、むしろ戸惑いすらあった。対象となる絹の歴史と文化、養蚕製糸などの産業は県民にとってありふれたものであったから。翌年、群馬県は世界遺産推進室を設けた。

上毛新聞社では05年5月、フィールドミュージアム「21世紀のシルクカントリー群馬キャンペーン」を立ち上げた。養蚕、製糸、織物業が一体的に栄えた群馬県の歴史、伝統、風土に焦点を当て、シルクをテーマに新たな地域づくりを読者と共に構築することが趣旨であり、紙面やイベントなどで長期キャンペーンを展開した。

これには、上毛新聞社が展開した近代化遺産の保存を目的としたキャンペーンがベースとしてある。群馬県は1990（平成2）年度から91年度にかけて、全国初の「近代化産業遺産総合調査」を行った。94年には上毛新聞社はこの調査に着目、県とタイアップし、「近代化遺産保存活用キャンペーン」を始めた。以後、6年にわたってシンポジウムやイベントを行い、紙面特集を展開した。ここで、当時の国立科学博物館長の川村恒明氏が「シルクカントリー群馬」を提唱した。以後、これが新たな地域づくりを考えるキーワードとなった。

紙面展開と県民の自覚

「シルクカントリー」は、その後、何度もシンポジウムのタイトルとなり、群馬県のアイデンティティーを表す言葉として、次第に県民に定着していった。まず、キャンペーンの目的としては、多くの人に関心を持ってもらえるようにすること。シンポジウムや見学ツアー、写真パネル展、コンサートなどさまざまなイベントを行い、この様子を紙面で紹介。そして、県や市民団体、企業とも積極的に連携を図った。

富岡製糸場

荒船風穴

高山社跡

田島弥平旧宅

本紙での特集連載も数多く行った。2000（平成12）年11月から翌年3月にかけて、「世紀をつなぐ 繭の記憶」を30回連載、後世に語り伝えなければならない絹産業に携わった人々の営みと思いを取り上げた。05年5月からは先人の業績に光を当てた「ぐんまルネサンス 絹人往来」、併行して「絹の国の物語」、06年5月からは「私の中のシルクカントリー」。特に「私の中のシルクカントリー」の連載は、キャンペーンの大きな節目となった。県民一人一人の「シルクカントリー」を語ってもらおうという企画で、沈滞気味だった世界遺産登録運動を県民の目線にまで下げ、養蚕製糸の記憶が多くの県民の心の中に息づいていることを証明することになった。

連載、イベント展開と書籍化でバックアップ

07（平成19）年1月に絹産業遺産群が世界遺産候補になった。いわゆる暫定リスト入りした。このことが県民の意識をさらに大きく変え、登録を疑問視していた人たちも一転して期待を口にするようになってきた。以後、上毛新聞は2014年の正式登録まで、絹の歴史と文化をテーマに、途切れることなく連載を続けた。

また、連載企画と並ぶ「シルクカントリー群馬キャンペーン」の柱がシンポジウムを中心とするイベントであった。05年11月に富岡製糸場を主会場に俳人、金子兜太を招いたトーク、俳句ラリーなどを開催。これを基本形に「シルクカントリーin～」と題したイベントを開催、第1回が07年8月に六合村（現中之条町）赤岩で開いた「シルクカントリーin赤岩」。以降、桐生市、伊勢崎市、下仁田町、富岡市、藤岡市、群馬県庁（前橋市）を会場に、ほぼ毎年開催した。

そして、もう一つの柱となったのが出版事業である。上毛新聞の連載を中心に全10巻の**「シルクカントリー双書」**を企画した。08年2月に**『繭の記憶』**を発刊、それを記念したイベント「『繭の記憶』を語る」を前橋市で開催、講演会とパネルディスカッションを行った。連載以外にも富岡製糸場伝道師協会に執筆を依頼した**『富岡製糸場事典』**（第8巻）、方言の研究者に依頼した**『絹のことば』**（第9巻）などもあり、13（平成25）年3月に全10巻が完成した。これは年2冊ずつ刊行、その都度、県内外から識者を招き、養蚕製糸にまつわる記念講演会を開催した。

世界遺産関連の書籍を精力的に発行

そして今年、世界遺産登録に向けた運動が軌道に乗り、登録が現実味を帯びてきた。出版部では本登録を視野に入れ、14年度は関連書籍の出版を精力的に行った。

まずは4月に日本絵手紙協会認定講師による、ぐんま絹遺産を巡り歩いて描いた作品集『**絵手紙めぐり ぐんま絹遺産**』、6月には本紙連載の世界遺産登録に至るまでの歩みをまとめた『**絹の国 拓く**』と、製糸場で学んだ技術をタイ王室へ伝えた女性の物語『**はばたく上州娘―タイ王宮で生糸づくり―**』、決定を挟んで7月に養蚕、製糸、絹織物の振興に力を尽くした人々を紹介した『**絹の国を創った人々―日本近代化の原点・富岡製糸場―**』と立て続けに関連本を出した。そして、8月には富岡製糸場世界遺産伝道師協会とタイアップし、『**まるごとわかる！世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」建築ガイド**』という初学者向けのガイドブックを発行した。同協会とは06（平成18）年に『**世界へはばたけ！富岡製糸場～まゆみとココのふしぎな旅**』という小中学生向けの副読本を出し、本書は現在5刷を重ねている。

今後の展開

2014年の世界遺産登録を視野に入れ、本紙では13年から、「残そう絹と繭の国」キャンペーンを始めた。また、営業局では協賛社を募り、登録後の地域づくりを考える公開講座**「TOMIOKA 世界遺産会議」**を始めた。出版部ではこの講演内容を再録したブックレットを刊行し、すでに3巻を数えている。建築家の隈研吾さん、政治学者の御厨貴さんなどにも講演いただいた。

10月3日、弊社主催の「21世紀のシルクカントリー群馬」キャンペーン感謝の宴を開いた。前身の近代化遺産保存活用キャンペーンから20年間にわたる運動を支援してきた団体関係者や個人ら約200人が、これまでの歩みを振り返り、各地の絹遺産を生かした地域づくりへ決意を新たにした。この会に合わせ、『**絹の物語 つむいで―シルクカントリー群馬キャンペーンの軌跡―**』を急きょ制作した。本書ではキャンペーンの歩みとともに、弊社が1887（明治20）年創刊以来、「絹の国」の地方紙として創刊して以来、蚕糸絹業と絹文化に関わる報道に力を入れてきたことを伝えている。

この半年間、今までのペースの倍以上の速さで世界遺産、養蚕製糸関連を発行してきた。その背景には群馬の地方紙として、そこに根付いた産業を精力的に取材し、地域を盛り上げるイベントを行ってきた弊社の姿勢というものがあった。今後も創刊以来の「絹のDNA」とも呼ぶべき、この伝統を絶やさず出版活動を続けていきたい。

そうすれば結果はおのずとついてくると信じたい。

＊

（じょうもうしんぶんしゃ・とみざわたかお）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『絹の物語つむいで ―シルクカントリー群馬キャンペーンの軌跡』●上毛新聞社編著

「シルクカントリー」をキーワードに、養蚕、蚕糸、織物で栄えた群馬の歴史に新たな光を当て、これからの地域づくりを考えるキャンペーンに取り組み、富岡製糸場世界文化遺産登録に到る上毛新聞社の20年の足跡と未来に向けての絹の文化再発見の記録である。

1990年から翌年にかけ、文化庁は全国の近代化遺産を把握し活用の方向性の検討を行うことを目的とした近代化遺産総合調査を群馬県で実施した。いち早くこの調査結果に注目した同社は、94年に紙面で遺産保存キャンペーンをスタートさせ、シンポジウム「近代化遺産をまちづくりに活かす」を開催する。県が世界文化遺産登録プロジェクトを立ち上げる10年近くも前のこと。以来、様々な企画を展開し今日に至っている。「県民が地域の歴史を知り、古里に自信と誇りを持てる機会を提供」することが地方紙の使命であるとの姿勢に打たれる。地域づくりはここからだ大事だ。地方紙の存在感をさらに高めて欲しい。

◆1296円・B5判・120頁・**上毛新聞社**・群馬・2014/10刊・ISBN978-4-86352-116-2

『開店　森の駄菓子屋さん』●昭るり著

とっても深い深い山奥のお話。その山奥で老木のブナがリスと仲良く暮らしていた。ブナの木の実のおかげで食べ物に困らなかったリスだが、体内にノロという苔が生えて、もうじき枯れてしまうとブナから聞かされ、ショックを受ける。ブナのためにはノロを食べるタニシが必要と知ったリスは駄菓子屋を開き、お金の代わりにもらったタニシを根元に入れ続ける。すると幹の中から一匹のホタルが現れて……。果たしてリスはブナを救えるのか？自然の摂理だけではなく、お客とのやり取りから思いやりが大切だという二重のメッセージが込められた絵本。栃木県那須町在住で自らも駄菓子屋を営む絵本作家の優しい視点が光る。

◆1296円・270mm×228mm・30頁・**下野新聞社**・栃木・2014/9刊・ISBN978-4-88286-559-9

『自由人　西行』●名越　護著

「願はくは花の下にて春死なん　その如月の望月のころ」と歌った西行（佐藤義清、1118-1190）は、平安時代後期、同年の友人・平清盛とは対照的な人生を送った。文武に秀で朝廷の警護隊「北面の武士」に選ばれたが、２３歳の若さで妻子のもとを去り出家、歌と仏の道を歩んだ。

というと、庵に籠ってひたすら修行一途の一生だったかにみえるが、そうではなかった。都で政争があれば駆けつけたり、源頼朝に奥州からの砂金運搬の保証をとりつけ、一方、高野山の負担金免除を清盛に頼んだり、捨てたはずの妻子の様子をのぞいたり、歌会に顔を出したり・・・と、誰にも左右されない生活を続け、各地を漂泊するという自由人ぶりを本書で知ることができる。

◆2160円・四六判・247頁・**南方新社**・鹿児島・2014/9刊・ISBN978-4-86124-297-7

『ジャーナリズムよ　ーメディア批評の１５年』●藤田博司著

30年余に亘って共同通信社で報道、論説に携わり、退職後は大学で論じるなど、生涯をジャーナリズムに捧げた著者の過去15年のコラム集。

新聞倫理綱領の精神から報道現場の理想と現実を直視し、外部批判に謙虚に耳を傾けることを説いた「ジャーナリズムの原則」、正確で公正な報道と、強大な権力を市民に代わって監視する使命を論じた「ジャーナリズムの役割」、そうしたことを忘れがちな昨今の状況を鋭く批判した「劣化するジャーナリズム」、厳しいジャーナリズム環境の将来を担う記者の意思を問う「政治報道の足かせ」の４部からなる。メディアの危機が叫ばれる今日、著者は本書を遺言のようにして残して、10月５日に急逝された。残念でならない。

◆2160円・四六判・438頁・**新聞通信調査会**・東京・2014/10刊・ISBN978-4-907087-28-9

『サブカルチャー聖地巡礼　ーアニメ聖地と戦国史蹟』●由谷裕哉・佐藤喜久一郎著

アニメなどの舞台を訪ねるいわゆる聖地巡礼やゲームなどを入り口とした史蹟巡りといったものが本書のテーマである。著者たちは民俗学を専門とし、聖地巡礼は「オタク」のものという既成概念や、そこからどう利益を生むかという視点から離れてこの現象を見つめようと努めている。

研究手法としてとられたのは、それぞれの聖地に置かれた巡礼ノートへの書き込みや神社仏閣に奉納された聖地巡礼者の絵馬の文面の分析、あるいは史蹟巡礼者への聞き取りなど。そこから現代の巡礼のスタイルが少しずつ見えてくる。とりわけSNSといったネットの交流などから、巡礼の物語が作り出されていくという指摘は興味深い。

◆3024円・Ａ５判・204頁・**岩田書院**・東京・2014/9刊・ISBN978-4-87294-882-0

地方小出版流通センター

ジャンル別 新刊案内

2014年10月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２２６　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-20353-3　14/10

◆**GREEN REPORT**　４１８　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-50-3　14/10

◆**ほおづゑ**　第８２号　福原　義春編　Ａ５　167頁　６００円　三好企画［千葉］978-4-938740-95-5　14/10

◆**ママともぶらす　東京ベイ・千葉版**　Ｎｏ．６１　市川　恵美子編　Ａ４　88頁　６００円　明光企画［千葉］978-4-503-20363-2　14/10

◆**子どもと昔話**　Ｎｏ．６１　小澤　俊夫編　Ａ５　79頁　８５３円　小澤昔ばなし研究所［神奈川］978-4-902875-64-5　14/10

◆**子どもと読書**　４０８号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　40頁　５５０円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］978-4-907376-08-6　14/10

◆**道**　Ｎｏ．１８２　木村　郁子編　Ａ４　74頁　１２３４円　どう出版［神奈川］978-4-904464-58-8　14/10

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．１７２　石橋　勝利編　Ａ４　128頁　１８００円　アクシス［東京］978-4-503-20372-4　14/12

◆**オルタ**　４５６　田中　滋編　Ｂ５　17頁　３２４円　アジア太平洋資料センター［東京］978-4-503-20361-8　14/10

◆**女性と経験**　第３９号　女性民俗学研究会編　Ｂ５　135頁　２１６０円　岩田書院［東京］978-4-503-20368-7　14/10

◆**地方史研究**　第３７１号　地方史研究協議会編　Ａ５　132頁　１２３４円　岩田書院［東京］978-4-87294-971-1　14/10

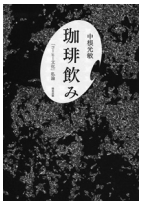
◆**御影史学論集**　３９　酒向　伸行編　Ｂ５

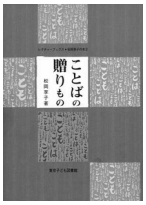
売行良好書

期間：2014年10月16日～11月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『今日の漫画　史群アル仙作品集』1296円・ナナロク社　(2)『珈琲飲み』2592円・洛北出版　(3)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404円・書籍情報社　(4)『ことばの贈りもの』1512円・東京子ども図書館　(5)『ラフカディオ・ハーンの英語クラス』3456円・弦書房　(6)『降りられない船』1620円・クオン　(7)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(8)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(9)『子どもに絵本を届ける大人の心構え』1080円・「絵本で子育て」センター　(10)『サンリオＳＦ文庫総解説』1944円・本の雑誌社　(11)『自閉症の子どもたちの生活を支える　増補版』1620円・エンパワメント研究所　(12)『中共政権の爛熟・腐敗』2484円・蒼蒼社





［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社　(2)『東京かわら版　１１月号』432円・東京かわら版　(3)『サンリオＳＦ文庫総解説』1944円・本の雑誌社　(4)『本の雑誌　３７８号』700円・本の雑誌社　(5)『降りられない船』1620円・クオン　(6)『夜想＃カフカの読みかた』1620円・ステュディオ・パラボリカ　(7)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版　(8)『今日の漫画』1296円・ナナロク社　(9)『織田信長　その虚像と実像』1296円・サンライズ出版　(10)『八王子城今昔物語絵図』756円・揺籃社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あの世と生まれ変わりの驚異の真実』1620円・リーブル出版　(2)『東丹沢登山詳細図　大山・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳　全１１０コース』926円・吉備人出版　(3)『八王子城今昔物語絵図』756円・揺籃社　(4)『フィールドで使える　図説　植物検索ハンドブック［埼玉２８２４種類］』2916円・さきたま出版会　(5)『写真でわかる　磯の生き物図鑑　フィールド版』2160円・トンボ出版　(6)『ペコロスの母に会いに行く』1296円・西日本新聞社　(7)『黒田如水』1620円・海鳥社　(8)『ラフカディオ・ハーンの英語クラス』3456円・弦書房　(9)『スウェーデン　森に遊び街を歩く』1620円・書肆侃侃房　(10)『狛犬誕生』2160円・澪標

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼日本で最大の子どもの本の会員制販売システムを九州・長崎で創りあげた童話館の川端強氏が、病気療養中のところ、11月3日に享年66歳で亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。今後はご子息の川端翔氏が後継社長となって、絵本の普及活動に尽力されるそうです。当センターは出版社としての**童話館出版**と取引関係にあります。

▼当センターがある、東京は牛込神楽坂の近く、地下鉄東西線神楽坂駅矢来口を出てすぐのところに、校正の会社、鴎来堂が運営する**〈かもめブックス〉**という本屋さんが11月29日に開店するそうです。カフェやギャラリー、鴎来堂校閲部分室が併設された、なんともおもしろそうな空間になりそうです。「校正・校閲という仕事を御存知ですか？本が世に出る前に、原稿を読んでまちがいを見つける仕事です。僕たちは神楽坂で約10年、書籍の校閲専門の校正会社として『読む』ことで出版に関わってきました。そんな僕たちが、新しい本屋を始めようと思います。」かもめブックスホームページ〈店主よりご挨拶〉より。

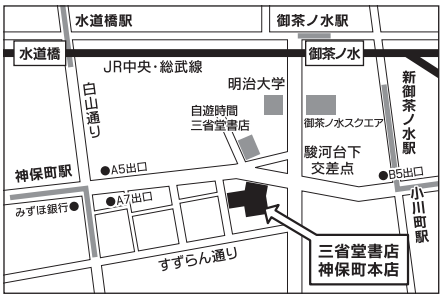
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。